

熊本 S.J.C.D.例会 抄録

演題；ノンクラスプデンチャーの臨床

演者名；小坪義博

日付；2011年5月24日

Keywords

1. 審美性
2. 支持＋把持＋維持
3. 補綴設計

抄録；

欠損補綴の選択には、大きく分けて3つの選択肢が考えられる。ひとつは義歯であり、固定式を希望するならば、ブリッジかインプラントになる。1～4歯程度の欠損であれば、患者は固定性の修復を望む事が多いであろう。現在の潮流からいけば、欠損補綴の方法としてインプラントを用いた補綴修復を、最初に患者に提示する傾向が見られる。

但し、インプラント治療は、誰でもが選択出来るわけではなくて、経済的な問題、全身および局所状態によりインプラントを断念せざるを得ないケースも存在する。また、ブリッジと無歯顎においては、それぞれの治療方法を問題なく受け入れてくれる患者が多いけれども、残存歯が存在していてクラスプを使った部分床義歯を選択するケースにおいては、クラスプが他人の目に触れる事を嫌う患者がいる事も少なくない。今回、クラスプを用いずに部分床義歯を作製し、患者の満足感が得られた症例を紹介して、先生方のご意見をお伺いしたいと思います。